

英語ディベートは英語能力を向上させるのか

福井県立武生高等学校 探究文科3年

Abstract

This study aimed to clarify the connection between English debate and improvement of English proficiency. Two experiments were conducted. The first experiment was a comparison of GTEC scores. The subject was the Takefu high school's global club, which engaged in English debate. The subjects practiced debate for 1 year, and after that, it was found that their reading ability was improved in GTEC. However, improvements in their listening, writing, and speaking abilities were not found. The second experiment was writing tests. 8 tests were conducted in a year, which recorded scores and word counts. During that time, half of the subjects showed improvements in scores, but few subjects showed improvements in word counts. From these results, it was estimated that there was no connection between English debate and improvement of English proficiency.

1 はじめに

近年、多くの教育現場で英語ディベートが行われている。ディベートとは、与えられた議題について肯定派、否定派に分かれて討論するもので、準備型のアカデミックディベートと即興型のパラメンタリーディベートがある。

著者が所属する武生高校グローバル部では英語ディベートが行われており、部員は日々積極的に議論を交わしている。そこで著者は、部員の多くが英語でのコミュニケーション能力を向上させていることに着目し、「英語ディベートは英語技能を向上させるのか」という問いを立てた。

先行研究によれば、英語ディベートは高校生の英語技能を向上させることがGTECや定期テストの得点比較により示されている(問田,2013)。しかしこの研究では、被験者は英語ディベート以外にも英語文献の多読やスピーキングの指導を受けており、英語技能の変化が英語ディベートによるものでなかった可能性がある。

これらを踏まえた上で、本研究では英語ディベートと英語技能との関係を明らかにする。

2 実験方法

英語ディベートと英語技能との関係について明らかにするために2つの実験を行った。

第一はGTECの得点比較である。対象は武生高校グローバル部の2年生(6人)とした。1年次から2年次にかけてのGTECの得点の変化を、グローバル部2年生(6人)の平均と武生高校2年生全体(269人)の平均とで比較した。

第二はライティングテストである。対象は武生高校グローバル部の1、2年生(9人)とした。2022年8月から12月にかけて8回のテストを行った。ライティングテストは

英語技能検定の準2級と2級に基づいており、武生高校ALTが採点した。また、ワード数も記録した。

3 結果

(1) GTECの得点比較での実験結果

1年次から2年次にかけてのGTECの得点の変化を、武生高校グローバル部2年生(6人)の平均と武生高校2年生全体(269人)の平均とで比較した。リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの分野別に結果を分析した。

1年次(2021年12月)~2年次(2022年12月)の得点の変化

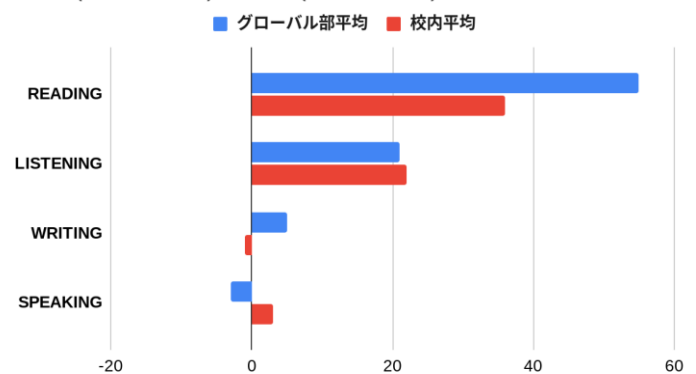


図1. GTECの得点比較¹

リーディングにおいてのみグローバル部の平均が校内平均を上回っていたが、リスニング、ライティング、スピーキングにおいては大きな差は見られなかった。また、ライティング、スピーキングの得点は1年次から2年次にかけて、両者ともほぼ変化が無く低下していた。

¹ 横軸は点数の変化(2年次の点数-1年次の点数)

(2) ライティングテストでの実験結果

図2から図10の結果をまとめる。スコア、ワード数がともに向上したのは2人(部員1、2)、スコアのみが向上したのは3人(部員3～5)、ワード数のみが向上したのは1人(部員6)、スコア、ワード数がともに低下したのは3人(部員7～9)であった。

4 考察と結論

GTECの得点比較においては、グローバル部のリーディングの得点の伸びが校内平均よりも大きかった。しかし、グローバル部は母集団が小さいため、この結果から英語ディベートがリーディング能力を向上させたとは言いきれない。また、リスニング、ライティング、スピーキングの得点の変化は、グローバル部の平均と校内平均とで大きな差がないことから、英語ディベートと英語技能との関係性は弱いことが示された。

ライティングテストにおいては、スコアを向上させた部員は約半数であり、スコア、ワード数がともに低下した部員が3人いたことから、こちらでも英語ディベートと英語技能との関係性は弱いことが示された。

したがって本研究では、「英語ディベートは英語技能を向上させるとは言えない。」と結論づける。

5 参考文献

間田雅美 (2013) 「ツールとしての英語ディベートによる英語力育成」

6 図表

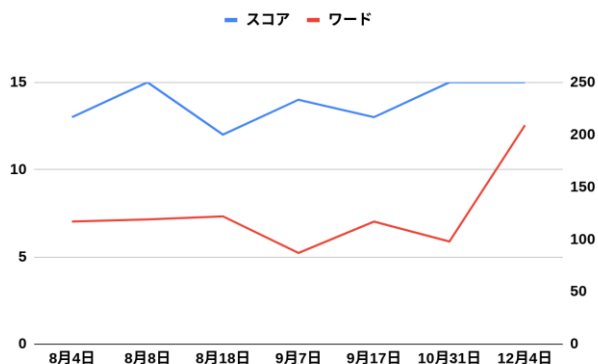


図2. ライティングテストの結果(部員1)

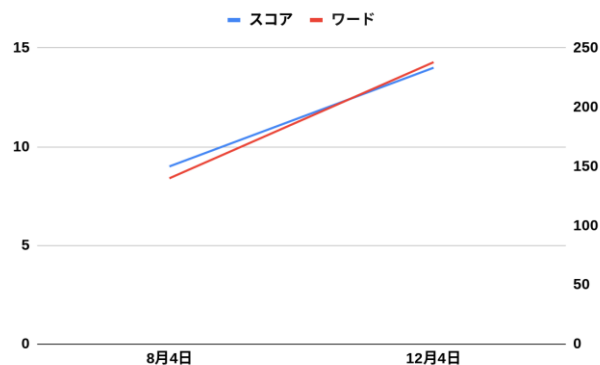


図3. ライティングテストの結果(部員2)

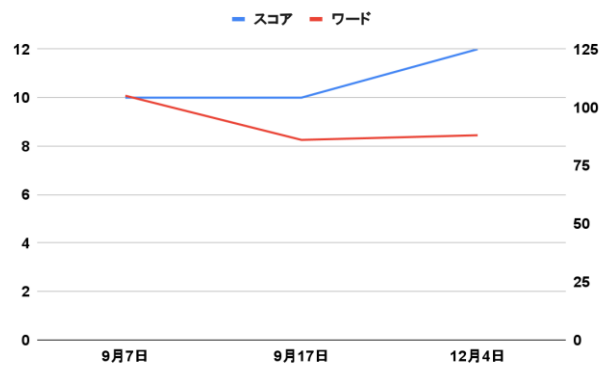


図4. ライティングテストの結果(部員3)

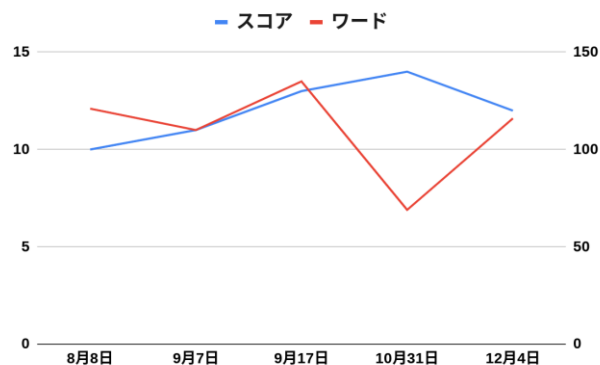


図5. ライティングテストの結果(部員4)

² 左軸はスコア(16点満点)、右軸はワード数

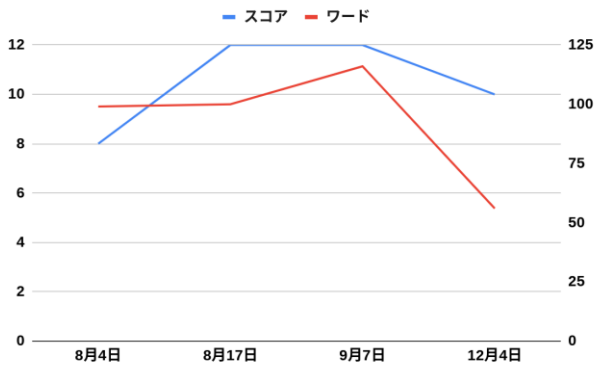


図6. ライティングテストの結果(部員5)

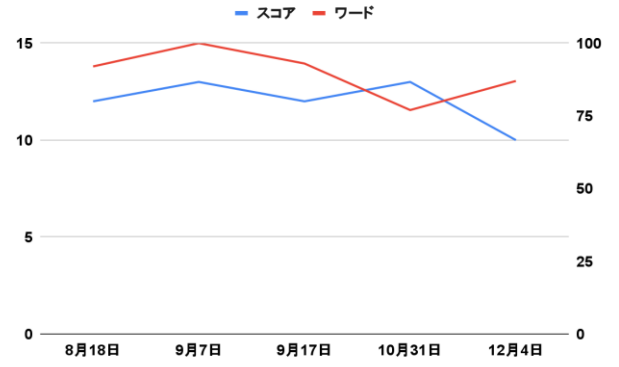


図10. ライティングテストの結果(部員9)

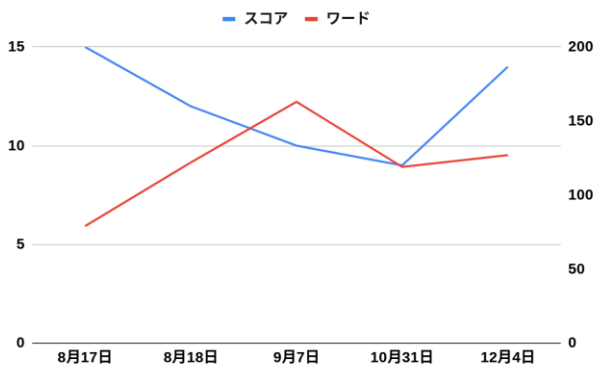


図7. ライティングテストの結果(部員6)

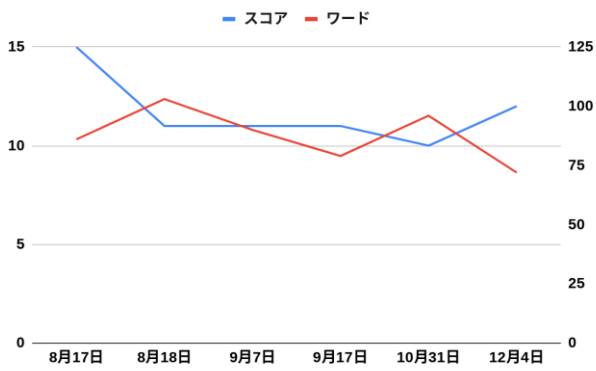


図8. ライティングテストの結果(部員7)

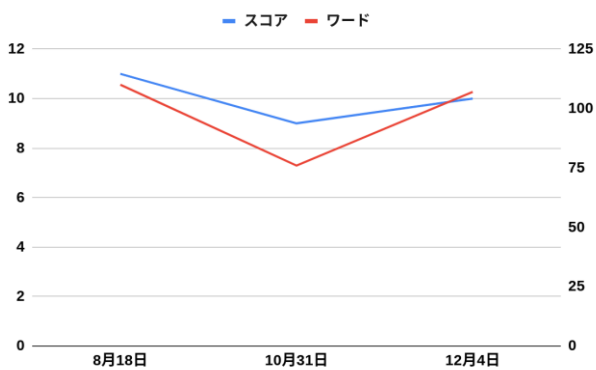


図9. ライティングテストの結果(部員8)